

心を育み、小さな創造を積み重ねる学校に

山形市教育委員会 教育長 荒澤 賢雄

山形市小学校・中学校両校長会誌に寄稿するにあたり、会員各位の今年度一年間のご尽力とご苦勞に対し、心より御礼を申し上げます。とりわけ、今年度末でご勇退なされる校長先生方には、永年にわたる山形県並びに山形市の教育に対するご貢献に衷心より敬意と感謝の意を表します。今後とも山形市の教育の充実・発展にお力添えを頂ければ幸甚に存じます。

さて、政府の要請による全国一斉の休校の中、令和2年度はスタートしました。毎年4月1日の辞令交付式は気持ちも新たに職責を自覚する節目の式ですが、今年度は総合学習センター多目的室において、校長先生にお一人ずつ入室いただき、まるで流れ作業のように教職員の辞令を交付しなければならなかったことを思い起こし、今年度の社会状況の異様さを改めて痛感しているところです。

また、今年度ほど、様々な思いや考え・意見・願い等々がいろいろな場所で噴出し、かつ渦巻いたことはなかったようにも感じています。卒業式や入学式については児童・生徒や保護者はもちろんのこと、様々な立場の市民からも多様な考えや意見が表明されました。各学校の運動会や学習発表会・文化祭などの学校行事にも、同様に多種の思いや考えが表出されました。渦巻く意見の中で、予期せず、学校行事など教育活動の本質論に迫る価値ある議論が展開されることもあったようです。ともあれ、卒業式や入学式を保護者の皆様方のご参列のもと無事に挙行でき、各種学校行事も感染防止のため多くの制約が生じましたが、可能なものは工夫を凝らしながら実施されたことは誠に喜ばしいことでした。

修学旅行の実施にあたっては、各学校では、児童・生徒や保護者の様々な思い等に寄り添った丁寧な対応に努めなければなりません。特に、感染リスクを不安に思う保護者や子ども達への対応だけでなく、県外に出向かれた方や県外から来られた方と接触した場合は2週間の出勤停止という厳格なルールがある医療機関や介護施設にお勤めの保護者やその子どもの思いや不安、苦悩、悩みにも真摯に向き合い、対応していただいた各学校の姿勢に心から敬意を表し感謝を申し上げます。

さらに、感染者や医療従事者、仕事で県内と県外を常に往復している方々、あるいは他県からの来形者の方々への差別や偏見、誤解等に基づくバッシングが大きな社会問題となりました。残念ながら、児童・生徒の感染が確認された山形市内小中学校に対しても、心無い問い合わせがあったようです。

これらの状況を考えるにつけ、多様な思いや考え、願い、加えて差別や偏見、誤解までもが社会中に渦巻き、顕在化している今だからこそ、折に触れて、子ども達の強く、優しく、そして、しなやかな心を育むことが大切であることを強く感じます。

結びになりますが、コロナ禍という社会状況の異様さはこれからもしばらくは続くことが予想されます。フロイトと並び、二十世紀最大の心理学者と評されるピアジェは、「教育とは、創造する人間をつくることである。」と述べています。また、創造する人間とは、彼自身の表現によれば、順応する人ではなく、発明する人、革新する人であると付け加えています。さらに、「現在の状況や自己自身を絶えず点検し、それを革新し、常に何かの新しい価値を発明し、周りの状況と自己を創造し続けていくことが教育の本義である。」とも述べています。

先を見通すことができない現在のコロナ禍の異様な状況の中、私達も先人の言葉に倣い、率先して新たな教育的価値を見出しながら、日々創造に努めていくことが大切だと考えます。そうすることが新しい生活様式を積極的に尊重していくことに繋がるのかもしれませんが。また、創造とは決して大袈裟なことを求めているのではなく、小さな工夫を積み重ねて教育の充実に努めていくことです。今後とも、各学校の創意溢れる取り組みにご期待申し上げます。